

2021年3月11日・

★特別番組「多文化防災とあなたの隣の外国人」★

本日、3月11日（木）9:00～10:55 の約2時間の特別番組の放送が無事に終わりました。以下、ダイジェスト版です。

9時台のゲストは、宇都宮市内在住、鹿沼市外国人相談員、ブラジルご出身の日系2世、来日28年の行本リジアさん。

東日本大震災当日は、老人ホームでおやつを運んでいた最中だったそうです。帰宅後、連絡が取れない当時中学生の息子さんが泥だらけになって帰って来て、理由を聞くとご近所のお年寄りを助けて回っていたので怒るに怒れなかったお話。その後、息子さんは防災士の資格をとられたそうです。

外国人人口比率が県内でもっとも高い真岡市の当時のお話では、外国人住民たちは避難所があることを知りながら建物の中の方が危ないと感じ自ら公園にテントを張り過ごしていたこと、お肉をストックしておく習慣があるブラジル人が炊き出しとして公園でお肉を焼いて配ろうとした際に、地元の日本人から「バーベキューなんて不謹慎だ」と受け取ってもらえず悲しい思いをしたことなどをお話いただきました。

東日本大震災後に増えた水害については、常総市へ通訳ボランティアへ行かれた際のお話として、酔った日本人が「外人出て行け」と避難所で外国人住民をひどく殴り警

察沙汰になったが、その殴った日本人は、支援に来たネパール人のカレーの炊き出しに並んでいたお話。同時期の鹿沼市での水害に、ベネズエラ人が、何かしたいと相談してきて、ボランティアしたい外国人は多いと感じているお話をいただきました。

"教えて黒子リーダー" のコーナーでは、ベトナム国籍フエンさん作「すいがいの つぎのひには おおそうじ」、ナイジェリア国籍バイオレットさん作「またゆれた にほんのじしん おそろしい」という川柳が紹介され、栃木県国際交流協会（TIA）では、外国人の皆さん自らが避難行動に移せるよう「わたしの避難カード」が多言語（9言語）で作成されていることなどが楽しく伝えられてました。

10 時台のゲストは、清原地区国際交流会会長・栃木県国際交流協会会長、20 年以上多文化共生に向けた活動をされてきた阿久津容子さんと、ワールドフェスティバル実行委員長・ワールドクッキングクラブ代表で台湾ご出身の伊澤愛さんと共に、これからの外国人住民を含めた防災について考えました。

阿久津さんからは、東日本大震災後に清原地区すべての自治会に、非常時に外国人住民の様子を地区の連絡本部に伝える担当者を配置する連絡網をつくったこと、自治会長たちと地区の日本語教室に通う外国人住民たちと一緒に"やさしい日本語"を使った防災訓練を行ったことが紹介されました。

来日 15 年の伊澤さんからは、普段からのご近所付き合いが日本人であっても外国人で

あっても大切だということや、連絡網にひらがながふってあることで音としても大事な情報が記憶できるといった意見が出されました。清原地区の取り組みにとっても感激して、自分の住んでいる地域でも何か始めたいと考えているそうです。

そして、最後に、パーソナリティの坂本から、外国人住民、特に長く日本に住み、日本のことや地域のことを良く知る外国人住民たちと日頃から非常時の対応を一緒に考えておく必要性と重要性。10年前に比べても災害をめぐる多言語情報ややさしい日本語で出される情報は増えましたが、それを必要な人に「つなげられる人」はまだまだ少ないの現状が語られました。

そして、そうした外国人住民と地域をつなぐための取り組みとして、「あなたの隣の外国人」スタッフが中心となり、TABUWATA（たぶわた）（「多文化共生に興味あるんです、私」の略）という団体をつくられることが発表されました。ぜひ、Facebookの検索機能で検索してみてください。

貴重な場をご提供いただいたミヤラジ、毎回放送を支えてくださるナビゲーターの柏木さん、本当にありがとうございました。





